

## 自分の進路実現に向けて～ある天才の生きざまから～

きみはら けんじ  
君原健二

昭和16年 福岡県生まれ

昭和37年 朝日国際マラソンに出場

以来、11年間に35回もの国際マラソンに出場 その間にあった

東京オリンピック8位 メキシコオリンピック2位 ミュンヘンオリンピック5位  
ボストンやアジア大会などで優勝13回。 そして棄権ゼロ。

あの街角まで  
あの柱まで  
あと 500メートルだけ・・・  
と走る続けるのが  
ボクのマラソンです。



1年間頑張り続けるのは大変でも

1日ならば、1時間ならば 誰にでもできる。

マラソンは「棄権しろ、棄権しろ、そうすればらくになるぞ」

という誘惑との闘いです。

いつも、あの街まで走ってやめようと本気で思って走る。

そこに来ると、あの電柱まで・・・そこまで来ると あと500mだけ・・・

最後は歩いてでも・・・そんな風に自分に言い聞かせて走り続けてきたんです。

1年間がまんしろ！と言われたら 大変なことでも、1日だけ 1時間だけなら  
しんぼうできる。 これと同じですね。

君原さんは、勉強は「おとっている」 運動も「にがて」な子で、何に対しても  
引っ込みじあんで、いつも劣等感を持っていた少年でした。

中学校の時に友人から駅伝部に誘われ、イヤだったけども それを断る

勇気すら持っていないく、ズルズルと何の目的も持たずに走っていた。

高3の時、就職を希望していたが、どこも不合格。卒業間近になって

当時、日本最強の陸上部がある八幡製鉄所(現 新日鉄八幡)にひろわれる。

まわりには、日本を代表するような選手がたくさんいて、とてもたちうちで  
きなかった。

自分をひろってくれた恩をどうしても返したくて「才能も技術もない自分は練習  
を積み重ねるしかない」と思い、練習が終わっても一人トラックに残り走り続け  
た。来る日も来る日も走り続け、初めてチャレンジしたマラソンが、福岡国際  
マラソン。以後の成績は前に示した通り。

「今しかできないことを 今やることに意味がある」

「努力をしたら 必ずむくわれる。むくわれない努力はない」

「すぐに成果が出なくても 人生の中で いつか出てくる」

天才とたたえられる人が、こんな努力をしていたとは・・・

こんなたたかいをしていたとは、思ってもみませんでした。

**自分はやっているだろうか？ これと同じ努力を。 あと10分**

**あと10歩 あと10回・・・小さなつみかさねを続けていきたい。**

今だやる気スイッチが入らずに、ただ何となく、ダラダラと毎日を過ごしている  
あなた！今しかない時間を無駄にしない。「自分は無理」「自分はこれくらいで」  
「そんなにやっても」「目標もないし」なんて事は言わないで、自分の可能性にチャレン  
ジして欲しい。今日の自分より数ミリでも数センチでも前向きに進む。そんな生き方  
(行き方)が3年後、5年後の未来を変えたいと思います。頑張る仲間と一緒に、  
進路実現そして卒業へと進みましょう。